

人に優しくフィットする生体センサ実装技術

生体センサを身につける負担や煩わしさを軽減し、
生活の中に違和感なく実装できます

#ウェルビーイング・人的資本経営



///技術課題

従来のヘルスケアデバイスは、装着やスマホとの接続・充電などの運用が手間となり、ユーザに継続使用してもらうことが難しい点が課題でした。

///研究目標

日常生活の生体データを活用したリハビリ支援・健康増進ビジネスを中心に、年間数十億円規模のビジネス創出をめざします。

---要素技術

- ・ リジッド・フレキシブル回路基板を柔軟なゴム筐体で被覆する独自のデバイス構造
- ・ 複数個所で取得した生体信号を、人体を介した信号伝送により配線レスで統合

---市中技術差異点

- ・ 肌に馴染む柔軟なセンサ構造により、日常生活の自然な装着感を実現
- ・ 配線を不要化したことにより、従来の心電計測において課題であった負担感を感じることなく長期・連続計測を実現

---適用ビジネス

医療・健康．特にリハビリ支援産業分野において

ユーザが簡単に装着・利用できる心電計として、遠隔心臓リハビリテーション等のユースケースに適用（2026年頃）

（遠隔心臓リハビリテーション：退院した心疾患患者などを対象とし、病院外での運動中の心電図を遠隔にいる医師が確認しながら運動について指導教育する）